

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-121

学校名・団体名	佐伯市立直川中学校
HPアドレス	http://tyu.oita-ed.jp/saiki/naokawa/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさとから世界へ ～国際交流を通して学ぶESD～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>「直川から世界へ～ローカルからグローバルへ」を年間テーマに、学習活動を展開する総合的な学習の時間において、2学期は国際理解の場として、SYD出前講座による学習やAPU大学訪問を企画する。</p> <p>それらの活動を通じて、生徒たちはアジア各地のボランティア活動の実態を理解し、さらにAPUに留学している学生たちと直に触れあい、諸問題取材する交流活動を体験することで、これからのSDのために必要とされることは何かについて考え、3学期には、その学習成果を「卒業プレゼン」としてまとめ、地域や保護者の方の前で1人ひとりが発表を行う。</p>	

1、APU（立命館アジア太平洋大学）訪問に至るまでの学習

中学3学年の総合的な学習の時間において、1学期ふるさと直川の現状と課題を学習する「直川塾」で、地域社会の一員としての自覚を育てた。さらに地域をPRするための商品開発を大分県立佐伯豊南高等学校総合学科の生徒たちとともに考える中高コラボ学習を行った。

2学期からESD（持続可能な開発のための教育）について本格的に学習をはじめ、10月5日に公益財団法人修養団「SYD」から講師の方をお招きし、フィリピンなどの「貧困とともに生きる子どもたち」について現地の状況やボランティアの実態について学習を行った。「ローカルからグローバルへ」の視点転換を行い、そのためのより具体的な活動として、12月20日に大分県別府市あるAPU立命館アジア太平洋大学に訪問を行った。

2、活動内容

(1) 時期 平成28年12月20日（火） 8：40～15：00

(2) 教科 総合的な学習の時間 「APU立命館アジア太平洋大学を訪問し、留学生と交流しよう」

(3) 目的

- ①総合的な学習の時間の年間テーマ「直川から世界へ～ローカルからグローバルへ」の追求のための2学期行う具体的な活動の第2弾として計画する。（第1弾はSYD出前授業）
- ②今回はAPU立命館アジア太平洋大学を訪問し、留学生と交流の場や構内インタビュー活動の機会を設けることで、生徒自身がアジア各国の諸事情や「持続可能な社会（SD）」の実現のために必要とされることは何かを考える。
- ③大学を実際に訪問し、施設を見学することで、生徒の大学への興味関心などを喚起し、自己の進路などを考える場とする。

(4) 生徒につけたい力

- ①留学生との交流会を通じて、国際社会の一員としての広い視野、意思決定能力（判断力）
- ②インタビュー活動を通じて、留学生に質問し、会話するコミュニケーション能力（表現力）
- ③大学構内見学を通じて、自らの将来の進路選択に活かす将来設計能力（思考力）

(5) 活動内容

- ①留学生との交流会（APU留学生とのグループ別交流会）
- ②インタビュー活動（3人グループ活動による留学生への構内インタビュー）
- ③大学構内見学（全員でAPU施設見学）

(6) 日程

8：40 本校出発（貸切バス1台：生徒21名、教師4名）

10：10 APU着

10：40～11：30 交流会（交流会はすべて英語で、生徒たちで運営）

※留学生学生は5名参加（5グループ編成）

※交流会流会の目的は、留学生の方とコミュニケーションを取りながら、以下のことについて率直な意見を取材することである。

- ①留学生の方の生活や夢や人生観
- ②日本についての印象や留学生の方の母国の現状（政治、経済、教育など）
- ③これからのアジアや国際社会について重要なこととは何か。
- ④そのために私たち日本人（中学生に対しても）が成すべきことは何か。
- ⑤さらに今の専攻している学科についてや留学生の方が、中学生時代にどのようなことを考えていたのか。

11：30～12：10 昼食（カフェテリア）

12：10～12：50 インタビュー活動（3人グループ編成）

※インタビューする留学生は1グループ7～8人以上が目標。

- ①インタビューは英語。質問内容は20以上を英語で用意しておく。
- ②最初に笑顔で、インタビューをしても良いか伺う。強引にしない。
※前のグループがインタビューをした人には声をかけない。
- ③次にインタビューをする自分たちの素性とこのインタビューの目的を告げる。
- ④1回の時間は長くても3分～5分程度
- ⑤質問内容は精査しておき、短く聞く。3人とも質問する。
- ⑥質問内容が差別になったり、相手に失礼な内容にならないか十分に注意する。
- ⑦インタビュー終了後にお礼を言う。

12：50～13：20 大学構内見学

13：30 APU発（貸切バス1台）

15：00 本校到着（事後活動で、活動ふり返りシートを記入）

<活動・研究報告2>

(7) 成果

年間テーマ「直川から世界へ～ローカルからグローバルへ」について、生徒がよく理解して活動に参加することができ、APU大学訪問では次のような成果が得られた。

- ①留学生との交流会では、初対面の留学生とグループ別の交流会を生徒たちだけで運営させたが、英語学習もさることながら、コミュニケーション能力の育成にも役立つ会となった。
- ②生徒の質問について留学生が真摯に答えてくれ、日本や母国についての貴重な「生の声」を聞くことができた。逆に生徒たちも質問されることもあり、どのグループも楽しく交流することができた。
- ③留学生から聞いた「日本の課題」については3学期の卒業プレゼンでまとめることができた。
- ④大学構内のインタビュー活動では、不特定多数の留学生に自分たちからアプローチを行い、どのグループも貴重な意見を聞くことができた。40分の活動時間、7グループでインタビューできた留学生の出身国は以下のとおり。目標（50名程度）をはるかに上回ることができた。

韓国 カナダ スリランカ メキシコ アメリカ合衆国 モンゴル ブルガリア インド
フィリピン ベトナム スコットランド ドイツ ネパール 中国 台湾 インドネシア
オランダ ウズベキスタン タイ ケニア トンガ ロシア ソマリア サモア エストニア
(25カ国と地域、のべ64名)

- ⑤大分県は人口一人当たりの留学生数は全国1位（2位は京都。「平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果」）であり、77カ国地域から3380人の留学生の方々が、大分県の大学、専門学校等で学んでいる。そのなかでも別府にあるAPU立命館アジア太平洋大学には2649人の留学生の方が在籍しているため、このような交流会やインタビュー活動を行うには、最適な環境であった。その結果、生徒にとってはたった1日の体験学習であっても、多くの国の留学生と出会うことができ、国際交流を肌で実感することができた。他の活動ではできない大変貴重な体験を行うことができた。そして、このような体験学習を、少年期から青年期にさしかかる多感な時期にである中学生段階で経験することは、これからの国際社会を生きていくグローバルな人材を育成することに、大変効果的であると考える。
- ⑥1年間の学習のまとめを、今「卒業プレゼン」（iPadを使用。Keynoteで生徒自身が作成）として作成している。プレゼンテーマは「自分の将来の夢と、ふるさとやこれからの国際社会の接点」であるが、どの生徒も今回の国際交流の体験を大変貴重な体験として受け取っていた。このプレゼンは卒業式の5日前の2月27日、全員が地域、保護者の方々の前で発表を行う予定である。

